

令和元年度 第1回福井県総合教育会議 結果概要

◆ 主な意見

<「教育に関する大綱（案）」について>

- 地域や企業、校種間の連携など、いろいろなコミュニケーションが盛んに行われることにより、子どもたちが身近な人に憧れを持ち、自ら考える力が育まれる。これから教育の学校間・地域間格差は広がっていくと考えられるので、小規模な学校でも人とつながっていけるような取組を進めてほしい。
- 子どもの個性を広げていくには、教員自身の個性も大事。教員の個性や社会的立場を高めるところは弱いように思う。社会から適正に評価を受け、心理的な安心感を持ちながら、しっかりと教育に専念できるような環境づくりが必要。
- 目指す人間像は、そのまま教員にも当てはまる。PTAや保護者も、教員を育てるという視点を意識して持たないといけない。
- 教員が子どもの個性と向き合うには、精神的・肉体的なゆとりが必要。教員の働き方改革を進めることが欠かせない。
- 伝統芸能や祭りは、後継者の不足や参加者の減少により継承が困難になっている。地域の人々と交流する機会が消えていくのは勿体ないので、よその地区から参加するような動きを県全体として応援できるとよい。能楽堂などの施設も活用できるとよい。
- ALTの中には、日本語を全く喋れずに帰国する人もいる。地域の祭りなどを通して、もっと福井を知ってもらえれば、帰国後も情報を発信してもらえる。
- 放課後児童クラブなどの学校外の取組として、多様な体験・活動を行うのはよいこと。教員の働き方改革にもつながる。
- ふるさと愛がやる気につながることもある。教員自身がふるさと愛を持って、生徒に接し、県外に出なくても福井で出来ることを紹介することは大事。
- 教育の場だけの大綱にならず、分かりやすく開けた内容にした方が、保護者の理解も深まる。作成時だけでなく、作成後も継続的に保護者に情報発信してほしい。
- 福井で教育を受けてよかったと思えるような特色ある学校づくりを進めてほしい。できるだけ現場に権限や判断をおろし、柔軟に対応できる体制になるとよい。